

糸状菌製剤と気門封鎖剤による 夏秋トマトのオンシツコナジラミ防除

福島県農業総合センター 生産環境部

1 部門名

野菜 - トマト - 病害虫防除

2 担当者

荒川昭弘・岡崎一博

3 要旨

夏秋トマトのオンシツコナジラミは化学合成殺虫剤に対して感受性低下が生じやすい難防除害虫である。そこで、感受性低下を生じにくい防除剤として、糸状菌製剤と気門封鎖剤の防除効果を検討した。

- (1) 糸状菌製剤のパーティシリウム レカニ剤(マイコタール)やベキロマイセス ティヌイペス乳剤(ゴッツA)を約7日間隔で2回以上散布すると防除効果がみられた。
- (2) 糸状菌製剤は低温乾燥時に効果が劣るので散布時期に注意が必要である。
- (3) 気門封鎖剤のデンブン液剤(粘着くん液剤)100倍、還元澱粉糖化物液剤(エコピタ液剤)100倍を5日間隔で3回散布することで防除効果がみられた。
- (4) 糸状菌製剤のパーティシリウム レカニ剤(マイコタール)あるいはベキロマイセス ティヌイペス乳剤(ゴッツA)に気門封鎖剤のデンブン液剤100倍を加用すると防除効果はさらに高まった(図)。

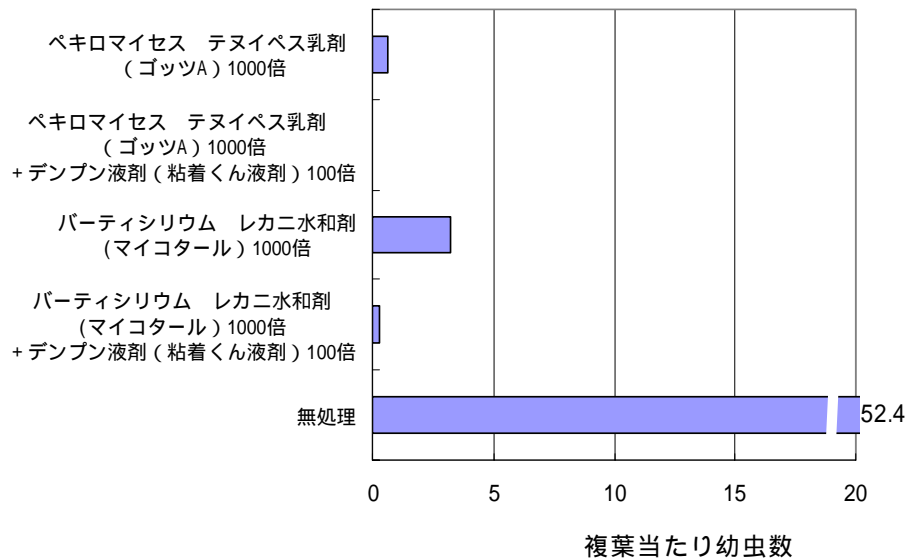


図 気門封鎖剤の添加効果 (2008年)

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成19～21年度農業総合センター試験成績概要(2007～2009)